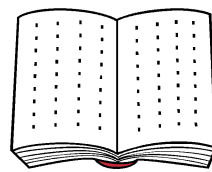


# 万葉図書・情報室だより33号

## 校本万葉集 — 編纂の足跡 —

『校本万葉集』って  
ご存じですか？

校本とは、古典につ  
いて、手で書き写した



様々な本の違いを一覧できるように  
した本です。基になる本と他の本との  
違いを書き出すことを校合(ききようご  
う)といい、書き写された本をつきあ  
わせてみた結果判明した、本文の異同  
を校異といえます。このように編集さ  
れた『校本万葉集』は、万葉集の研究  
には欠かせない本です。

明治四十五年文部省文芸委員会の  
事業として、万葉集の研究者である佐  
佐木信綱氏らが『校本万葉集』の編纂  
をはじめました。編集は江戸時代に刷  
られた万葉集を一行ずつ切り離し、白  
紙に貼り付けるといふ地道な作業か  
ら始まります。ところが大正二年に文  
部省文芸委員会の行政整理のためこ  
の事業は廃止になってしまいました。  
そんな時、古河男爵の好意により東

京帝国大学国語研究室の事業として  
継承されることになりました。前述の  
佐佐木氏らがそのまま事業を引き継  
ぎ、着手以来七年を経てようやく二十  
種の古写本・古刊本による校本がで  
きあがりました。

その後、さらに主な註釈書も集録し、  
印刷原稿として加えられました。

このようにして、原稿の作成は着々  
と進みましたが、純学術的図書の出版  
は容易ではありませんでした。しかし  
財団法人啓明会が有益であることを  
認めて費用を負担し、また東京帝国大  
学にお願いした出版が許可され、出版が  
確定しました。

が、出版に際して活字にない文字や、  
サイズの異なる文字が多いなどの難  
点があったため、どこの印刷所にも引  
き受けてもらえず、やむなく字の上手  
な人に書き写してもらおうことになり  
ました。それを写真撮影して印刷、  
『校本万葉集』二十巻が完成しました。  
刊行の喜びも束の間、今度は関東大  
震災の大火災で印刷済みの『校本万

集』本文五百部やその他の資料が焼失  
するというアクシデントにみまわれ  
ました。

幸いにして、佐佐木氏と武田祐吉氏  
の許にあった校正刷が辛うじて焼失  
を逃れたことにより、長年の編纂作業  
が無駄にならずにすみました。が、大  
打撃を受けたことは確かです。

再印刷への切なる願望が高まるな  
か、熊澤一衛氏の協力によりそれが実  
現します。洋装の装丁から土佐産の和  
紙を用いた和装本に改め大正十三年、  
刊行にこぎつけることができました。

苦難や災難を乗り越え、たくさんの  
人に支えられた『校本万葉集』は、万  
葉図書・情報室で閲覧できます。

手書きの『校本万葉集』の味わいと  
ともに、編纂と刊行までの足跡と関係  
者の努力に想いを馳せながら、ぜひ、  
手に取ってご覧いただきたい書籍で  
す。



M71
シジ
1

## ○新着図書案内○

☆万葉集からみる「世界」

(井上さやか／新典社新書)

☆よしのよく見よ

(上野誠／えんぴつ社)

☆藤原宮木簡三

(奈良文化財研究所)

☆なるほど！「藤原京」100の謎

(檀考研・檀原市／柳原出版)

☆ならー高田十郎雑記

(高田十郎／クレス出版)

☆宣長・鈴屋関係資料集

(中澤伸弘／クレス出版)

☆上代日本染織史

(明石国助／思文閣出版)

☆冬の夏 (三瀬夏之介／羽鳥書店)

## 利用案内

開館時間ー午前十時～午後五時半

休館日ー水曜日(祝日の場合は翌

日)・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス白 黒一枚 10円

カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-54-1850(代)